



日産化学株式会社

2026 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

説明者

取締役副社長 CFO 大門 秀樹

2025 年 11 月 10 日

大門：日産化学の大門でございます。ご説明を始めさせていただきます。

2025年度上期決算サマリー



上期

前年同期比

- 売上高は、119億円増収(+10%)
- 営業利益は、13億円増益(+4%)
- 純利益は、23億円増益(+11%)

上期

業績予想比
(2025年5月発表予想比)

- 売上高は、82億円上ぶれ
- 営業利益は、13億円上ぶれ
- 純利益は、22億円上ぶれ

株主還元の状況

- 中間配当 70円(前年比:同額)
- 自己株式取得 上期65億円 取得済(1,434千株)

業績予想の修正

- 2025年5月発表の通期業績予想を上方修正(p9参照)

4

資料の4ページでございます。上期の決算サマリーです。

上から前年同期比でございますが、売上高は前年対比で10%増の119億円の増収、営業利益は4%増の13億円増益、純利益は11%増の23億円増益になりました。

また、5月に発表しました業績予想との対比でございますが、上期につきましては、売上高で82億円の上ぶれ、営業利益で13億円の上ぶれ、純利益は22億円の上ぶれでございます。

株主還元の状況でございますが、中間配当は70円で、前年同額とさせていただいております。一方、自己株式の取得につきましては、上期で65億円分を取得済みでございます。

なお、業績予想通期につきましては、後ほど申し上げますが、上方修正を発表させていただいております。

2025年度上期決算サマリー 前年同期比



(億円)

	2024年度 実績			2025年度 実績			前年同期比		
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
売上高	587	595	1,182	699	602	1,301	+112	+7	+119 (+10%)
営業利益	144	139	283	181	115	296	+37	-24	+13 (+4%)
営業外損益	16	-20	-4	0	+2	+2	-16	+22	+6
為替差損益	13	-21	-8	-7	+3	-4	-20	+24	+4
経常利益	160	119	279	181	117	298	+21	-2	+19 (+7%)
特別損益	0	8	8	0	0	0	0	-8	-8
純利益※1	116	89	205	139	89	228	+23	0	+23 (+11%)
EBITDA※2	180	165	345	214	152	366	+34	-13	+21
EPS(円/株)	83.78	65.00	148.78	102.20	66.25	168.45	+18.42	+1.25	+19.67
配当(円/株)	-	-	70	-	-	70	-	-	0
配当総額	-	-	96	-	-	94	-	-	-2
売上高営業利益率	24.6%	23.4%	24.0%	25.9%	19.1%	22.8%	+1.3pt	-4.3pt	-1.2pt
為替レート(円/ドル)	156	150	153	145	147	146	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

5

具体的な数字は5ページでございます。こちらは、前年度比の上期について、1Q、2Qも含めた数字を表で記載しております。

数字としては、右から二つ目のボックスの上期、1行目、売上高は1,301億円、営業利益で296億円、これが前年同期比で13億円の増益でございました。経常利益は298億円、純利益で228億円と、前年対比で11%増益でございます。

一番下に、為替レート、ドル円がございまして。この上期は半年平均で146円がございまして、1年前の上期は153円でしたので、7円ほど円高でございました。

2025年度上期決算サマリー 業績予想比



(億円)

	2025年度 予想 (2025年5月発表)			2025年度 実績			業績予想比		
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
売上高	650	569	1,219	699	602	1,301	+49	+33	+82 (+7%)
営業利益	171	112	283	181	115	296	+10	+3	+13 (+5%)
営業外損益	-6	-6	-12	0	+2	+2	+6	+8	+14
為替差損益	-14	0	-14	-7	+3	-4	+7	+3	+10
経常利益	165	106	271	181	117	298	+16	+11	+27 (+10%)
特別損益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
純利益 ^{※1}	122	84	206	139	89	228	+17	+5	+22 (+11%)
EBITDA ^{※2}	-	-	353	214	152	366	-	-	+13
EPS(円/株)	-	-	152.52	102.20	66.25	168.45	-	-	+15.93
配当(円/株)	-	-	70	-	-	70	-	-	0
配当総額	-	-	95	-	-	94	-	-	-1
売上高営業利益率	26.3%	19.7%	23.2%	25.9%	19.1%	22.8%	-0.4pt	-0.6pt	-0.4pt
為替レート(円/ドル)	145	145	145	145	147	146	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

6

続きまして6ページは、業績予想比、5月に出しました発表値との比較でございます。

ここでは、数字としては先ほど申し上げました上期の実績値のとおりでございますけれども、上期の為替レートの前提としては、最終行にございますように、1ドル145円と置いておりましたので、ほぼほぼ同じぐらい、若干の1円程度のドル高で終わっているということでございます。

営業利益の増減分析

		2025年度 実績	2024年度 実績	前年同期比	業績予想(2025年5月発表)	業績予想比
		296億円	283億円	+13億円(+4%)	283億円	+13億円
上期	化学品	前年同期比 +2億円	ファインケミカル・基礎化学品増収により増益			
		業績予想比 3億円下ぶれ	ファインケミカル上ぶれも、基礎化学品下ぶれにより利益下ぶれ			
	機能性材料	前年同期比 +29億円	半導体・ディスプレイ・無機増収により増益			
		業績予想比 11億円上ぶれ	半導体・ディスプレイ・無機上ぶれにより利益上ぶれ			
	農業化学品	前年同期比 -24億円	ライメイ・アルテア等増収も、固定費等※1増加により減益			
		業績予想比 3億円上ぶれ	ライメイ・アルテア等上ぶれにより利益上ぶれ			
	ヘルスケア	前年同期比 -6億円	ファインテック減収により減益			
		業績予想比 2億円上ぶれ	ファインテック上ぶれにより利益上ぶれ			

※1 固定費等には在庫変動影響を含む

| 7

営業利益のセグメント別の増減分析のサマリーを、7 ページにお示ししております。

まず化学品でございますが、前年同期比では2億円の増益。また、業績予想比では3億円の**下ぶれ**でございました。

機能性材料、こちらは前年同期比では29億円と大きく増益となっております。半導体・ディスプレイ、無機、それぞれ増収によります増益でございます。また、業績予想比でも11億円の**上ぶれ**でございまして、サブセグメントそれぞれが堅調だったということでございます。

続きまして、農業化学品でございます。前年同期比では24億円の減益でございましたが、業績予想比では3億円の**上ぶれ**でございました。この前年同期比につきましては、そこに少し記載がございましたが、固定費等の増加がございまして、これだけで費用増として約29億円の増加になっております。このあたりは、後ほどもう少し詳しくご説明いたします。

最後に、ヘルスケアでございますが、前年同期比では6億円の減益。一方、業績予想比では2億円の**上ぶれ**でございました。

2025年度通期 業績予想サマリー

2025年度業績予想

営業利益は、5月発表予想の576億円に対し、590億円(過去最高益)に上方修正

通期	前年同期比	- 売上高は208億円増収(+8%) - 営業利益は22億円増益(+4%)、純利益は10億円増益(+2%) - EPS予想は+5%、ROE予想は18.5%
通期	前回業績予想比 (2025年5月発表予想比)	- 売上高は100億円上ぶれ - 営業利益は14億円上ぶれ、純利益は9億円上ぶれ
下期	前年同期比	- 売上高は89億円増収(+7%) - 営業利益は9億円増益(+3%) - 純利益は13億円減益(-6%) 為替差損益(営業外損益)22億円減益※1
下期	前回業績予想比 (2025年5月発表予想比)	- 売上高は18億円上ぶれ - 営業利益は1億円上ぶれ - 純利益は13億円下ぶれ 為替差損益(営業外損益)16億円下ぶれ※1

※1 詳細はp13、p14参照

株主還元予想

- 年間配当は180円(2025年5月発表から4円増配)
- 自己株式取得は合計105億円を予定(65億円は取得済、40億円は2026年3月までに取得予定)

配当	通期180円 中間70円、期末110円、配当性向54.8% 【前年比】6円増配 【2025年5月発表予想比】4円増配
自己株式取得	105億円 15億円(2025年3月発表分、2025年4月に取得済) 90億円(2025年5月発表分、50億円は2025年8月までに取得済、40億円は2026年3月までに取得予定) ※2024年度実績 115億円、2.3百万株
自己株式消却	1百万株消却(2025年11月)
総還元性向予想	78.8%
中期経営計画目標	総還元性向75%以上、配当性向55%以上

9

通期の業績予想を、9 ページでご説明いたします。

冒頭に記載のとおり、営業利益につきましては、5月発表予想の576億円から今回は590億円、これも過去最高益更新予定でございますが、上方修正させていただいております。

通期では、前年同期比では、一番上のボックスでございますが、売上高で8%の増収。営業利益は22億円の増益、プラス4%、純利益は10億円の増益、プラス2%ということになります。また、EPS予想につきましては、5%の成長になります。ROEは18.5%でございます。

これは、5月に発表しました通期の業績予想と比較しますと、二つ目のボックスでございますが、売上高で100億円の上ぶれ、営業利益で14億円、純利益で9億円の上ぶれでございます。

また、その中でも下期につきましては、今回見直しをいたしまして、前年同期比、それから5月の発表との予想比では記載のとおりでございます。ここで、特に為替差損益、営業外損益ですけれども、減益あるいは下ぶれという予想値を作っておりますが、これはまた後ほどご説明いたします。

また、株主還元の予想でございますが、下段にございますように、青字のところ、年間配当は 180 円でございます、5 月発表から 4 円増配になります。中間は 70 円、期末は 110 円で、前年対比で 6 円増配、配当性向は約 55%という私どものお約束どおりの数字でございます。

また、自己株式取得は、上の二つ目にございますように、年間合計 105 億円を予定しております。65 億円は既に上期に取得済みというのは、先ほどご説明したとおりでございますので、残り 40 億円、これが 2026 年 3 月までに取得予定ということでございます。この結果、総還元性向の予想値としては、78.8%になります。

2025年度業績予想サマリー 前年同期比



(億円)

	2024年度 実績					2025年度 予想 (2025年11月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	1,182	566	766	1,332	2,514	1,301	595	826	1,421	2,722	+119 (+10%)	+29	+60	+89 (+7%)	+208 (+8%)
営業利益	283	128	157	285	568	296	120	174	294	590	+13 (+4%)	-8	+17	+9 (+3%)	+22 (+4%)
営業外損益	-4	26	-10	16	12	2	-6	4	-2	0	+6	-32	+14	-18	-12
為替差損益	-8	18	-12	6	-2	-4	-8	-8	-16	-20	+4	-26	+4	-22	-18
経常利益	279	154	147	301	580	298	114	178	292	590	+19 (+7%)	-40	+31	-9 (-3%)	+10 (+2%)
特別損益	8	0	7	7	15	0	0	0	0	0	-8	0	-7	-7	-15
純利益 ^{※1}	205	112	113	225	430	228	83	129	212	440	+23 (+11%)	-29	+16	-13 (-6%)	+10 (+2%)
EBITDA ^{※2}	345	167	200	367	712	366	-	-	383	749	+21	-	-	+16	+37
EPS(円/株)	148.78	81.49	82.99	164.48	313.26	168.45	-	-	159.77	328.22	+19.67	-	-	-4.71	+14.96 (+5%)
配当(円/株)	70	-	-	104	174	70	-	-	110	180	0	-	-	+6	+6
配当性向(%)	-	-	-	-	55.5%	-	-	-	-	54.8%	-	-	-	-	-0.7pt
配当総額	96	-	-	142	238	94	-	-	148	242	-2	-	-	+6	+4
売上高営業利益率	24.0%	22.5%	20.6%	21.4%	22.6%	22.8%	20.2%	21.1%	20.7%	21.7%	-1.2pt	-2.3pt	+0.5pt	-0.7pt	-0.9pt
ROE	-	-	-	-	18.7%	-	-	-	-	18.5%	-	-	-	-	-0.2pt
為替レート(円/%)	153	152	153	152	153	146	145	145	145	146	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

具体的な数字、10 ページでございます。

真ん中のブルーの年間というのが、具体的な数字でございます、上から売上高で 2,722 億円、営業利益で 590 億円、為替差損益はマイナス 20 億円を予定しております。この結果、経常利益で 590 億円、当期純利益は 440 億円でございます。

為替レートの前提でございますが、上期同様、この下期はドル円で 145 円で置いた前提という試算でございます。

2025年度業績予想サマリー 前回業績予想比

(億円)

	2025年度 予想 (2025年5月発表)			2025年度 予想 (2025年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	1,219	1,403	2,622	1,301	1,421	2,722	+82 (+7%)	+18 (+1%)	+100 (+4%)
営業利益	283	293	576	296	294	590	+13 (+5%)	+1 (0%)	+14 (+2%)
営業外損益	-12	9	-3	2	-2	0	+14	-11	+3
為替差損益	-14	0	-14	-4	-16	-20	+10	-16	-6
経常利益	271	302	573	298	292	590	+27 (+10%)	-10 (-3%)	+17 (+3%)
特別損益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
純利益 ^{※1}	206	225	431	228	212	440	+22 (+11%)	-13 (-6%)	+9 (+2%)
EBITDA ^{※2}	353	380	733	366	383	749	+13	+3	+16
EPS(円/株)	152.52	166.91	319.43	168.45	159.77	328.22	+15.93	-7.14	+8.79
配当(円/株)	70	106	176	70	110	180	0	+4	+4
配当性向(%)	-	-	55.1%	-	-	54.8%	-	-	-0.3pt
配当総額	95	142	237	94	148	242	-1	+6	+5
売上高営業利益率	23.2%	20.9%	22.0%	22.8%	20.7%	21.7%	-0.4pt	-0.2pt	-0.3pt
ROE	-	-	18.1%	-	-	18.5%	-	-	+0.4pt
為替レート(円/%)	145	145	145	146	145	146	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

11

11 ページは、5 月の業績予想との比較でございますので、後ほど具体的な数字をご確認いただければと思います。

営業利益の増減分析

下期	2025年度 予想 (2025年11月発表)	2024年度 実績	前年同期比		
	294億円	285億円	+9億円(+3%)		
	化学品	前年同期比 +2億円	基礎化学品増収により増益		
	機能性材料	前年同期比 -1億円	半導体・無機増収も、固定費等※1増加により若干減益		
	農業化学品	前年同期比 +25億円	フルララネル・グレーシア・ベルダー等の増収により増益		
通期	ヘルスケア	前年同期比 +2億円	リバロ・ファインテックで若干減収も、固定費等減少により増益		
	2025年度 予想 (2025年11月発表)	2024年度 実績	前年同期比	前回予想 (2025年5月発表)	前回業績予想比
	590億円	568億円	+22億円(+4%)	576億円	+14億円
	化学品	前年同期比 +4億円	基礎化学品・ファインケミカル増収により増益		
		業績予想比 4億円下ぶれ	ファインケミカル上ぶれも、基礎化学品下ぶれにより利益下ぶれ		
通期	機能性材料	前年同期比 +28億円	半導体・無機・ディスプレイ増収により増益		
		業績予想比 12億円上ぶれ	半導体・無機上ぶれにより利益上ぶれ		
	農業化学品	前年同期比 +1億円	フルララネル・ベルダー・アルテア・グレーシア等増収に、固定費等増加が加わり、若干増益		
		業績予想比 7億円上ぶれ	ライメイ・ベルダー・アルテア等上ぶれにより利益上ぶれ		
	ヘルスケア	前年同期比 -4億円	ファインテック減収により減益		
通期		業績予想比 1億円上ぶれ	リバロ増収により若干利益上ぶれ		

※1 固定費等には在庫変動影響を含む

12

営業利益のセグメントごとの増減分析が12ページでございます。

上に下期、下に通期というのがございます。この通期、下段を見ていただきますと、まず化学品では、前年同期比で4億円の増益、また業績予想比では4億円の下ぶれでございます。

続きまして、機能性材料ですが、前年同期比で営業利益は28億円の増益。これは半導体・無機・ディスプレイ、それぞれ増収による増益で、後ほどもう少し細かくご説明いたします。業績予想比でも12億円のうぶれ、特に半導体、あるいは無機の上ぶれが寄与しております。

続きまして、農業化学品でございます。前年同期比では1億円の増益で、売上等増収しますが、固定費等の増加もございまして、若干の増益でございます。この固定費につきましても、後ほど申し上げます。また、業績予想比では7億円のうぶれでございます。

最後に、ヘルスケアは前年同期比で4億円の減益ですが、業績予想比では1億円のうぶれでございます。

営業外損益・特別損益の内訳 前年同期比

(億円)

	2024年度 実績			2025年度 予想 (2025年11月発表)			前年同期比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
受取利息・配当金	5.9	13.5	19.4	11.7	12.0	23.7	+5.8	-1.5	+4.3
持分法投資損益	1.4	9.2	10.6	1.6	8.6	10.2	+0.2	-0.6	-0.4
為替差損益※1	-8.3	6.8	-1.5	-4.5	-15.2	-19.7	+3.8	-22.0	-18.2
支払利息	-3.5	-3.0	-6.5	-2.2	-2.9	-5.1	+1.3	+0.1	+1.4
固定資産処分損他	0.5	-10.6	-10.1	-4.6	-5.0	-9.6	-5.1	+5.6	+0.5
営業外損益	-4.0	15.9	11.9	2.0	-2.5	-0.5	+6.0	-18.4	-12.4
特別利益	8.2	45.1	53.3	0.0	0.0	0.0	-8.2	-45.1	-53.3
特別損失	0.0	-38.8	-38.8	0.0	0.0	0.0	0.0	+38.8	+38.8
特別損益	8.2	6.3	14.5	0.0	0.0	0.0	-8.2	-6.3	-14.5

※1 為替レート(円/ドル): 24/3末 151.40、24/9末 142.82、25/3末 149.53、25/6末 144.82、25/9末 148.89

13 ページに、先ほどから少し後述しますと申しあげました営業外損益と特別損益の状況を示しております。これは前年度比のページでございます。

ちょうど真ん中の列辺りに、25 年 11 月発表の下期というところがございまして、ここで上から 3 行目、為替差損益としては 15.2 億円というマイナスの値を入れております。

ここは、ドル円の為替レートの前提としては 145 円で、上期と変えておりませんけれども、クォーターごと、3Q、4Q、それぞれ、一時点で、期末としては 140 円のドル円のレートになる可能性も含めまして、ここに織り込んだ結果でございます。この結果、年間ベースでは、為替差損益では、一番右の列にございますように、約 18 億円の減益要因ということでございます。

一方、特別利益・特別損失は、前年と比べますと、今回は全くゼロで想定しております。

営業外損益・特別損益の内訳 前回業績予想比

(億円)

	2025年度 予想 (2025年5月発表)			2025年度 予想 (2025年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
受取利息・配当金	7.5	11.6	19.1	11.7	12.0	23.7	+4.2	+0.4	+4.6
持分法投資損益	3.7	7.3	11.0	1.6	8.6	10.2	-2.1	+1.3	-0.8
為替差損益※1	-14.0	0.0	-14.0	-4.5	-15.2	-19.7	+9.5	-15.2	-5.7
支払利息	-3.2	-2.9	-6.1	-2.2	-2.9	-5.1	+1.0	0.0	+1.0
固定資産処分損他	-5.7	-7.6	-13.3	-4.6	-5.0	-9.6	+1.1	+2.6	+3.7
営業外損益	-11.7	+8.4	-3.3	2.0	-2.5	-0.5	+13.7	-10.9	+2.8
特別利益	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※1 為替レート(円/ドル): 24/3末 151.40、24/9末 142.82、25/3末 149.53、25/6末 144.82、25/9末 148.89

14 ページ、これは今申し上げた営業外損益と特損の業績予想比でございます。

やはり先ほど申し上げました為替差損益のところ見ていただきますと、先ほどの前提を置いておりますので、前年対比では年間で約6億円程度の減益要因を織り込んでおるということでございます。

キャッシュ・フロー

2025年度年間予想のフリー・キャッシュ・フローは401億円、前年同期比15億円の減少

(億円)

	2024年度 実績		2025年度 予想 (2025年11月発表)		前年同期比	2025年度 年間予想 (2025年5月発表)
	上期	年間	上期実績	年間	年間	
営業活動によるキャッシュ・フロー	462	592	487	619	+27	552
税金等調整前純利益	288	595	298	590	-5	573
特別損益(マイナスは益)	-8	-15	0	0	+15	0
減価償却費※1	62	144	70	159	+15	157
法人税等の支払	-58	-126	-95	-178	-52	-167
運転資金増減他	178	-6	214	48	+54	-11
投資活動によるキャッシュ・フロー	-71	-176	-81	-218	-42	-213
設備投資※2	-95	-176	-91	-215	-39	-215
投資有価証券購入・売却	-1	-2	-1	-2	0	-2
その他	25	2	11	-1	-3	4
フリー・キャッシュ・フロー	391	416	406	401	-15	339
財務活動によるキャッシュ・フロー	-311	-357	-350	-359	-2	-317
株主還元(配当)	-130	-227	-143	-236	-9	-341
株主還元(自己株式取得)	-50	-115	-65	-105	+10	
有利子負債増減	-130	-15	-142	-18	-3	24
その他	0	0	0	0	0	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	-3	-11	12	0	+11	0
現金及び現金同等物の増減額	78	48	68	42	-6	22
現金及び現金同等物の残高	305	275	343	317	+42	297

※1 のれん償却費を含む

※2 無形資産を含む

15 ページ、キャッシュ・フローでございます。

右から3列目が、今回の年間ベースの予想値でございます。フリー・キャッシュ・フローの予想としましては401億円と、表の真ん中の行にあるとおりでございます。ほぼ前年並みですが、5月発表時からかなり改善しているということでございます。

貸借対照表

(億円)

	2024年9月末	2025年3月末	2025年9月末	前期末比		2024年9月末	2025年3月末	2025年9月末	前期末比
流動資産	1,902	2,104	1,969	-135	負債	798	946	809	-137
現金	304	275	343	+68	買入債務	176	199	206	+7
売上債権	690	891	739	-152	借入金、社債、CP	284	405	261	-144
たな卸資産	814	801	796	-5	その他	338	342	342	0
その他	94	137	91	-46	純資産	2,316	2,362	2,413	+51
固定資産	1,212	1,204	1,253	+49	株主資本※1	2,165	2,229	2,251	+22
有形固定資産	773	724	758	+34	その他有価証券評価差額金	80	70	86	+16
無形固定資産	106	135	128	-7	為替換算調整勘定	31	18	29	+11
投資有価証券	254	244	265	+21	非支配株主持分	30	29	33	+4
その他	79	101	102	+1	退職給付に係る調整累計額	10	16	14	-2
資産合計	3,114	3,308	3,222	-86	負債純資産合計	3,114	3,308	3,222	-86
					自己資本比率	73.4%	70.5%	73.9%	
					ネットD/Eレシオ※2	-0.01倍	0.06倍	-0.04倍	

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2024年9月末	2025年3月末	2025年9月末	前期末比
上場株式※3 (単体ベース保有銘柄数)	169 (24)	156 (24)	179 (24)	+23 (0)
非上場株式	21	23	23	0
関係会社株式	64	65	63	-2
合計	254	244	265	+21
純資産に占める 政策保有株式の割合※4	7.5%	6.9%	7.6%	

参考

2018年3月末
300
(55)
17
68
385
17.0%

※1 株主資本増減+22 = 純利益228 - 配当その他206 ※2 ネットD/Eレシオ = (借入金、社債、CP - 現金預金) / 株主資本

※3 25/3末 156 + 取得0 + 評価差額+23 = 25/9末 179 ※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株+非上場株) / 純資産(連結ベース)

16 ページ、バランスシートでございます。

左上の資産の部でございますけれども、上からこの前期末比というところを見ていただきますと、売上債権で150億円強の減少、これは25年3月末比でございますが、かなり売上債権の回収が進んでいるというのは、いつもこの9月末ではこのような動きになっているということでございます。

一方、たな卸資産につきましても、約5億円の減少。前年同期比と比較しましても、約20億円の減少ということで、売上が伸びている一方で、たな卸資産については、かなり水準としては落ち着いてきたのかということでございます。

一方、この右側、負債サイドを見ていただきますと、借入金および社債というところで、約140億円強の減少となっております、売上債権の回収に伴って有利子負債も減らしているのはいつものとおりでございます。この結果、自己資本比率は73.9%ございました。

また、左下に投資有価証券の内訳がございます。前期末比で21億円の増加になっておりますが、これは特に当社が投資有価証券を買い増したわけではなくて、時価の上昇に伴ってこのような結

果になっているということでございます。いずれにしましても、純資産に占める政策保有株式の割合は7%台でございまして、かなり低い数字になっていることに変わりはありません。

セグメント別 設備投資・減価償却費・研究開発費



設備投資および減価償却費は、コア成長事業における製造能力増強(主に海外)により近年増加
研究開発費は、半導体を中心とした機能性材料と農業化学品にて増加基調

(億円)

	設備投資※1・7						減価償却費※2・7						研究開発費※7・8					
	2021	2022	2023	2024	2025予 (5月発表)	2025予 (11月発表)	2021	2022	2023	2024	2025予 (5月発表)	2025予 (11月発表)	2021	2022	2023	2024	2025予 (5月発表)	2025予 (11月発表)
化学品※3	43	28	46	52	55	40	25	25	27	29	31	29	3	3	3	3	3	3
機能性材料※4	54	90	91	44	88	117	39	46	60	65	66	65	70	76	82	83	101	104
(うち、NCK)※4	13	50	57	5	4	9	5	7	23	31	19	21	5	5	8	7	6	7
農業化学品※5	17	59	51	38	24	19	27	28	34	29	39	39	42	43	43	45	50	49
ヘルスケア※6	7	5	5	4	7	8	4	4	4	4	5	5	6	4	4	6	7	6
卸売	0	1	0	3	4	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
その他	3	11	9	35	37	30	6	7	12	16	20	20	39	42	41	54	63	59
合計	124	194	202	176	215	215	102	110	138	144	162	159	160	168	173	191	224	221

※1 設備投資額: キャッシュ・フローベース

※2 減価償却法

国内 ディスプレイ材料・半導体材料: 4年定率(初年度50%を償却)、その他: 8年定率(初年度25%を償却)

海外 NCK: 6年定率(初年度33%を償却)、NBR: 10年定額

※3 設備投資 2024年 富士工場 製造設備(10億円)、2025年予想(5月発表) 富士工場 製造設備(9億円)を含む

※4 設備投資 2022年 NCK半導体新工場(46億円)、2023年 NCK半導体新工場(47億円)、2025年予想(5月発表) 半導体研究設備・機器(32億円)、

2025年予想(11月発表) 半導体研究設備・機器(40億円)、半導体サプライチェーン強化(15億円)を含む

※5 設備投資 2022年 NBR 第1期工事(43億円)、2023年 小野田工場 製造設備(26億円)、2024年 小野田工場 製造設備(18億円)を含む

減価償却費 2024年 一過性要因の11億円減少を含む

※6 設備投資 2022年4月に組織改定を実施。2021年は旧医薬品セグメント、それ以降はその他を含む

※7 設備投資、減価償却費、研究開発費 2025年度よりDXおよび企画本部の一部においてセグメント区分を変更(p63参照)、2024年も区分変更後の数値に置き換え済み

※8 研究開発費 2025年度から集計方法の変更により企画本部の一部経費を研究開発費に含む。2024年も区分変更後の数値に置き換え済み

17

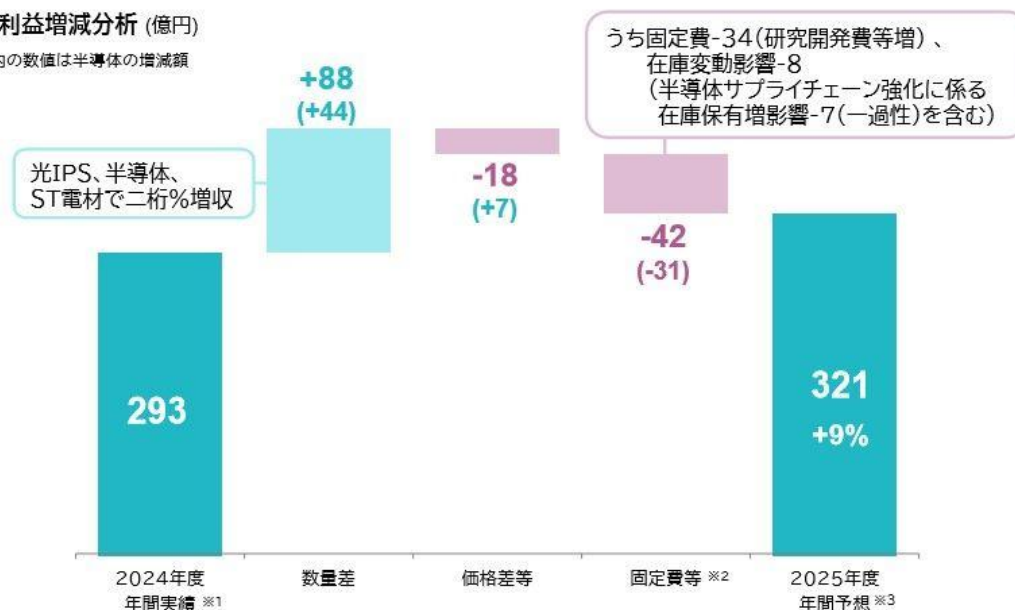
17 ページは、セグメント別の設備投資・減価償却費・研究開発費でございます。

かなり細かい表ですので、具体的な数字は後ほどご確認いただければと思います。例えば研究開発費で言えば、半導体を中心とした機能性材料と、それから農業化学品にて増加基調であることがお分かりいただけるかと思います。

- 2025年度は、価格差等の減益要因や半導体の成長投資に伴う固定費等増加があるも、半導体を中心に全てのサブセグメントでの数量増加が寄与し、増益を見込む

■ 営業利益増減分析 (億円)

括弧内の数値は半導体の増減額



※1 2025年度より新方式セグメント別営業利益。2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p63参照)

※2 固定費等には在庫変動影響を含む

※3 予想は2025年11月発表

| 20

ここからセグメント概況ということで、20 ページに飛びます。まず、機能性材料セグメントの営業利益の増減分析でございます。

先ほど少し触れましたが、具体的に、24 年度、それから 25 年度予想について、9%の増益という想定でございますけれども、解析としては、数量差、価格差、それから固定費等と三つに分けて、ここにお示ししております。

25 年度は価格差等の減益要因、あるいは半導体の成長投資に伴う固定費の増加がありますが、半導体を中心に、全てのサブセグメントで数量増が寄与しまして、9%の増益を見込むということでございます。

特に数量差のところ、左から二つ目のバーを見ていただきますと、この数量差で寄与しておりますのは、光 IPS、それから半導体、また無機のスノーテックス電材、ここで 2 桁%の増加がございました。

また、固定費等でございますが、42 億円増加する内訳でございますけれども、吹き出しに少しございますように、純然たる固定費としては 34 億円の増加。これは研究開発費等が増えるというこ

とでございますが、もう一つ、在庫変動影響として8億円というのが費用サイドに出ております。これは括弧内で記載しておりますが、半導体サプライチェーン強化に係る在庫保有増が、一時的に7億円程度、費用サイドで発生することが見込まれる結果でございます。

機能性材料セグメント

主要製品売上高成長率



- ディスプレイ材料は、2025年度上期で7%増収、業績予想比でも上ぶれ。2025年度年間で2%増収予想
- 半導体材料は、2025年度上期で18%増収、業績予想比でも上ぶれ。2025年度年間で16%増収予想
- 無機コロイドは、2025年度上期で8%増収、業績予想比でも上ぶれ。2025年度年間で7%増収予想

主要製品	2025年度 予想(2025年5月発表)					2025年度 予想(2025年11月発表)				
	前年同期比					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q実績	2Q実績	上期実績	下期	年間
ディスプレイ材料合計	+10%	+1%	+6%	+1%	+3%	+8%	+5%	+7%	-3%	+2%
半導体材料合計	+10%	+7%	+9%	+9%	+9%	+14%	+21%	+18%	+15%	+16%
ARC®	+3%	0%	+2%	+3%	+2%	+8%	+14%	+11%	+10%	+11%
多層材料	+14%	+15%	+14%	+12%	+13%	+22%	+45%	+34%	+19%	+26%
EUV材料※1	+17%	+3%	+10%	+11%	+10%	+20%	+9%	+14%	+43%	+28%
無機コロイド合計	+7%	+6%	+7%	+3%	+5%	+4%	+13%	+8%	+7%	+7%
機能性材料セグメント合計	+9%	+5%	+7%	+5%	+6%	+10%	+14%	+12%	+7%	+10%

※1 EUV材料: EUV向け下層膜とSi-HMの合計

21

21 ページ、これはいつもの主要製品売上高成長率をお示ししております。

右から3列目の上期実績というところと、一番右の年間というところを見ていただきますと、前年同期比ですが、まずディスプレイ、1行目ですけれども、上期は7%の増収でございました。また、業績予想比でもこれは上ぶれております。年間では2%の増収を想定しております。

続きまして、半導体、2行目ですが、上期は18%の増収、また年間でも16%の増収で、業績予想に對しまして大きく上ぶれてきているということでございます。ARC、多層材、EUV材料の内訳については、記載のとおりでございます。

無機コロイド、こちらも上期で8%の増収、年間でも7%の増収で、機能性全体としても年間で10%の増収を予定しております。

(億円)

	2024年度 実績			2025年度 予想 (2025年11月発表)			前年同期比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	486	515	1,001	544	553	1,097	+58	+38	+96
営業利益	145	148	293	174	147	321	+29	-1	+28

固定費等【上期】増加10億円、うち固定費8億円、在庫変動影響2億円
【年間】増加42億円、うち固定費34億円、在庫変動影響8億円

【下期】増加32億円、うち固定費26億円、在庫変動影響6億円

ディスプレイ	【上期】【年間】増収・増益	
	【下期】減収・減益	
	光IPS	【上期】【下期】【年間】 増収（大型モニター向け増収）
	ラビングIPS	【上期】【年間】減収 【下期】横ばい
	VA	【上期】【下期】【年間】減収

半導体	【上期】【下期】【年間】増収・増益	
	先端世代を中心に増収、顧客稼働増	
	ARC [®]	【上期】【下期】【年間】増収
	多層材料	【上期】【下期】【年間】増収
	EUV材料	【上期】【下期】【年間】増収
	三次元実装材料	【上期】【下期】【年間】増収
	固定費等	
	【上期】増加8億円	
	【下期】増加23億円（うち固定費17億円、在庫変動影響6億円）	
	【年間】増加31億円（うち固定費25億円、在庫変動影響6億円）	

無機コロイド	【上期】【年間】増収・増益	
	【下期】増収・減益	
	【年間】スノーテックス（研磨剤）、オイル＆ガス材料増収	

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p63参照)

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み（p63参照）

22

22 ページは、各サブセグメントごとに製品に照らして、特徴を前年同期比で記載しております。

ここの表のすぐ下に、固定費等と小さい字が書いてございますが、上期、下期、年間それぞれ純然たる固定費、それから在庫変動影響を分解して載せております。特にこの年間というところが、先ほど 20 ページのご説明したとおりの数字となっております。

内訳としては、特に半導体、ここは先端世代を中心に増収、また顧客稼働も増えていることで増益になっております。固定費につきましても、半導体だけを括り出して記載しておりますが、かなり増加していくということで、ここは特に影響の大きい半導体について個別に開示したということでございます。

(億円)

	2025年度 予想 (2025年5月発表)			2025年度 予想 (2025年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	520	540	1,060	544	553	1,097	+24	+13	+37
営業利益	163	146	309	174	147	321	+11	+1	+12

固定費等【上期】上ぶれ5億円(減益要因)、うち固定費下ぶれ1億円(増益要因)、在庫変動影響6億円(減益要因)
 【年間】上ぶれ19億円(減益要因)、うち固定費上ぶれ5億円(減益要因)、在庫変動影響14億円(減益要因)

ディスプレイ	【上期】売上高・営業利益上ぶれ 【年間】売上高下ぶれ・営業利益上ぶれ	
	光IPS	【上期】【年間】売上高上ぶれ
	ラビングIPS	【上期】【年間】売上高予想通り
	VA	【上期】【年間】売上高下ぶれ

半導体	【上期】【年間】売上高・営業利益上ぶれ 先端世代を中心に市場回復、顧客稼働増	
	ARC®	【上期】【年間】売上高上ぶれ
	多層材料	【上期】【年間】売上高上ぶれ
	EUV材料	【上期】【年間】売上高上ぶれ
	三次元実装材料	【上期】【年間】売上高下ぶれ
無機 クロイド	固定費等 【上期】上ぶれ8億円(減益要因) 【年間】上ぶれ20億円(減益要因) (うち固定費上ぶれ8億円(NCK出荷増に伴うコスト増等)、 在庫変動影響上ぶれ12億円(減益要因、半導体サプライチェーン 強化にかかる在庫保有増影響7億円(一過性)を含む)	
	【上期】【年間】売上高・営業利益上ぶれ 【年間】スノーテックス(特に研磨剤)売上高上ぶれ	

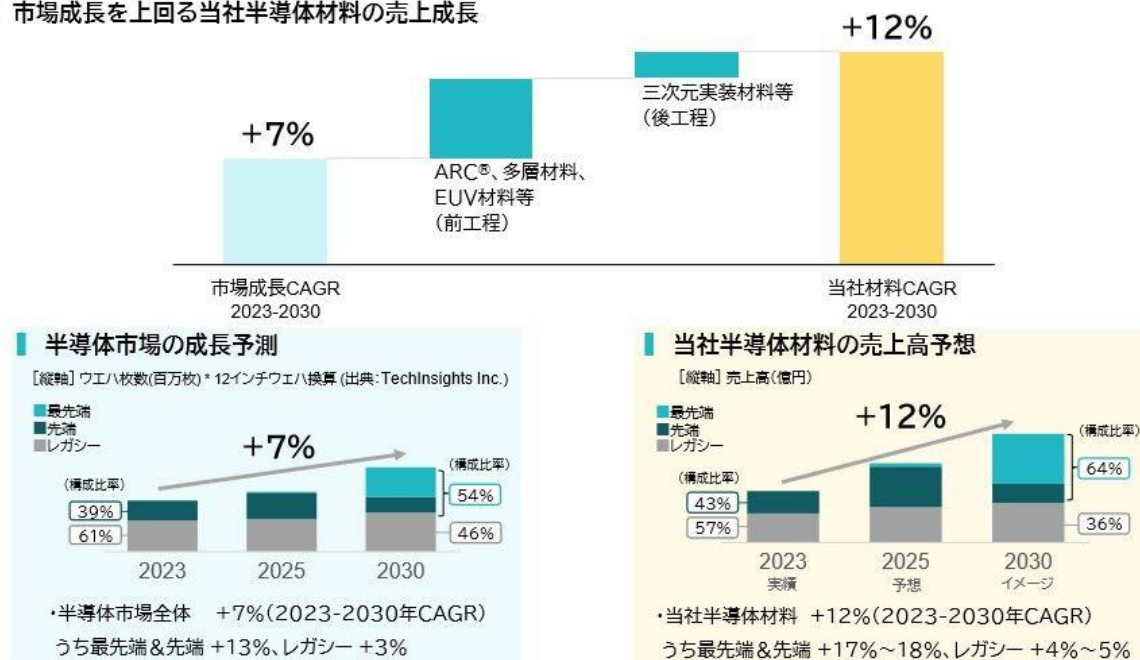
23

23 ページ、これは業績予想比でございまして、固定費等につきましては、表の下に小さく記載しているところは変わりません。

固定費、半導体につきましても、右下に少し小さく書かせていただいております。特にこの20億円の年間の固定費等の上ぶれと、減益要因になるわけですが、このうち純然たる固定費では8億円の上ぶれ。これは特に、韓国の現地法人等で生産出荷等が増加しておりますので、それに伴ったコスト増。また、在庫変動影響につきましても、先ほど申し上げました、一過性要因が7億円入っているということでございます。

- 当社半導体材料の売上高成長率は+12%(2023-2030年CAGR)と、市場成長率+7%を上回る計画
- AIサーバー向け等の最先端・先端世代において、当社材料は大きく伸長。世代の移行に伴い、材料の使用層数は増加傾向(最先端・先端向けの売上構成比) ARC[®] 2023年 約35% → 2030年 約50% (CAGR+12~13%)
多層材料 2023年 約40% → 2030年 約70% (CAGR+24~25%)

市場成長を上回る当社半導体材料の売上成長



【最先端】Logic: 2nm以降、DRAM: 10nm台前半以降、NAND: 2025年時点の最先端 【先端】Logic: 7~3nm、DRAM: 10nm台中盤、NAND: 128層以上、最先端未満 【レガシー】左記以外

24

24 ページ、最近、特に AI という需要増の背景もございまして、当社の 2023 年から 2030 年までを展望しました、この半導体材料に絞った成長率の想定をお示ししております。

上段のグラフにございますとおり、市場成長率、これは外部データを引用しておりますけれども、大体 CAGR で、2030 年までで 7%の増加に対しまして、当社の製品としては、ここに記載のとおり 12%、かなりアウトパフォームしていく想定をしております。

中身でございますが、下段に二つグラフがございます。左側が、半導体市場全体の成長予測で、TechInsights Inc.から取っておりますけれども、レガシー、先端、最先端と、三つのカテゴリーで、2023 から 2025、2030 年という期間にわたってどのように構成が変わっていくかという想定をグラフ化しております。

7%の市場全体の成長と申し上げましたが、最先端、先端で 13%、レガシーで 3%が一般的な見通しかと思います。

これに対しまして、当社の場合は、右にございます右下のグラフのとおりでございまして、最先端、先端で17～18%、CAGRで伸びていくと。レガシーについても4～5%で、構成比もかなり大きく、これは最先端、先端のほうに向かって増えていく想定でございます。

なお、この最先端、先端、レガシーという定義でございますが、一番下に、小さくて恐縮ですが、とも記載しております。後ほどご確認ください。

以上で機能性材料は終わりました、次は農業化学品セグメントでございます。

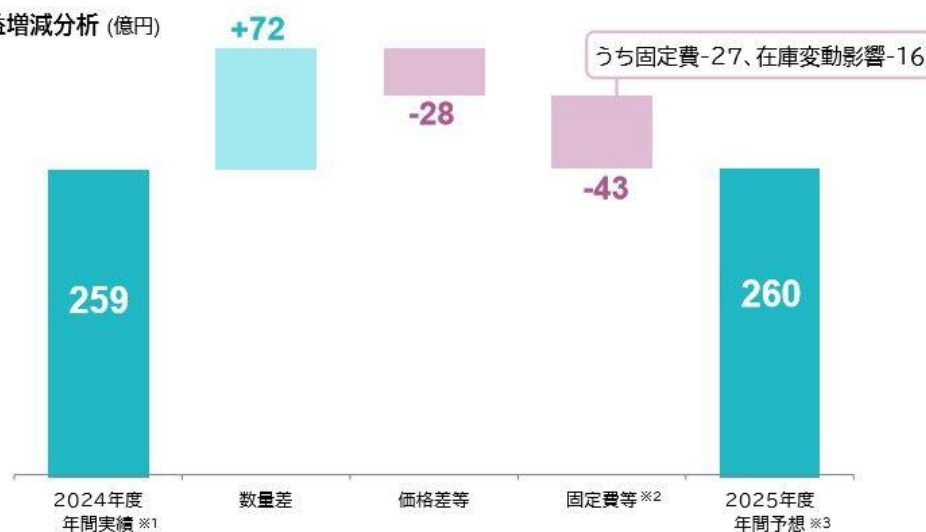
農業化学品セグメント

営業利益増減分析



- 2025年度は、主要製品全般で数量増加の一方、固定費等増加もあり小幅な増益にとどまる見通し
- 固定費等増加43億円の内訳は以下のとおり
 - 固定費27億円:前期に一過性要因の償却費減少が発生した反動(11億円)、今期新剤開発に伴う研究開発費増
 - 在庫変動影響16億円:前期に原価上昇による在庫評価益が発生した反動、今期出荷増に伴う繰越固定費増

■ 営業利益増減分析 (億円)



※1 2025年度より新方式セグメント別営業利益。2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み (p63参照)

※2 固定費等には在庫変動影響を含む

※3 予想は2025年11月発表

26

26 ページ、こちらでも機能性同様、営業利益の増減分析をしております。

この2025年度は、先ほどからご説明のとおり、主要製品全般で数量増加の一方、固定費等の増加もあり、小幅な増益にとどまる見通しでございます。

数量差でプラス72億円、価格差でマイナス28億円ですが、数量がかなり大きく伸びていることは見て取れると思います。一方で、固定費は、この吹き出しにありますように、純粋な固定費で27億円、また在庫変動影響で16億円、費用サイドに出ているということでございます。

固定費 27 億円の内訳は、冒頭の 3 行目にございますように、一つは 2024 年度 2Q に、一過性要因の償却費減少が約 11 億円ございました。これの反動が出ていることに加えて、今期は新剤開発に伴う試験費等が増加しているということでございます。

一方、在庫変動影響につきましても、前期に原価上昇による在庫評価益が発生した反動が今期に出ていることに加えて、今期は非常に出荷が好調ですので、その出荷増に伴う繰越固定費等の増加が一時的に出ているということでございます。したがって、ベースの稼ぐ力というのは非常に強いと認識しております。

農業化学品セグメント

主要製品売上高成長率(値引前)

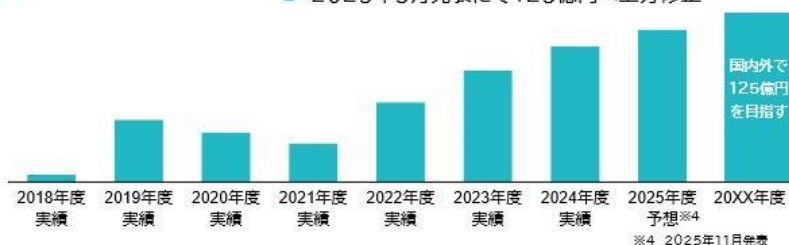


2025年度上期で8%増収、業績予想比でも上ぶれ。2025年度年間で11%増収予想

主要製品名 (農業:2024年度売上高順)		種類	2025年度 予想(2025年5月発表)			2025年度 予想(2025年11月発表)		
			前年同期比			前年同期比		
			上期	下期	年間	上期実績	下期	年間
農業	ラウンドアップ※1	除草剤	+8%	+9%	+8%	+2%	+9%	+6%
	アルテア	除草剤	+15%	+2%	+5%	+51%	0%	+12%
	グレースシア	殺虫剤	-27%	+68%	+14%	-17%	+51%	+12%
	ライメイ	殺菌剤	0%	-5%	-3%	+49%	-14%	+14%
	タルガ	除草剤	+15%	-13%	-3%	+45%	-13%	+8%
	パーミット	除草剤	+2%	-8%	-5%	0%	-10%	-7%
	ダイセン	殺菌剤	+15%	+3%	+6%	+25%	+5%	+11%
	ベルダー※2	除草剤	-	+178%	+201%	-	+314%	+417%
動物薬	フルララネル	動物薬	+5%	+25%	+12%	0%	+32%	+12%
セグメント合計※3		-	-1%	+13%	+7%	+8%	+14%	+11%

グレースシア売上高

- 当初のピーク時売上高目標100億円を2024年度に達成
- 2025年5月発表にて125億円へ上方修正



参考

ラウンドアップの現状説明会資料
(2020年1月22日発表)
農業化学品事業説明会資料
(2022年9月28日発表)

※1 ラウンドアップALは、2025年度上期のラウンドアップ売上高全体の31%を占める
※2 ベルダーは、2024年度4Qに上市
※3 セグメント合計は値引きを含む

27 ページ、こちら主要製品の売上高の成長率、一番右のブルーのところ、今回見直した結果でございます。

前年同期比で増減率をお示ししておりますが、セグメント合計としては、上期実績で一番下の 8% の増収でございました。下期は 14% の増収を想定いたしまして、年間としても 11% の増収を見込みます。

それぞれ、剤ごとにプラスマイナスございますが、次の 28 ページ以降で少し触れております。

(億円)

	2024年度 実績			2025年度 予想 (2025年11月発表)			前年同期比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	392	470	862	423	536	959	+31	+66	+97
営業利益	144	115	259	120	140	260	-24	+25	+1

固定費等 【上期】増加29億円、うち固定費16億円、在庫変動影響13億円 【下期】増加14億円、うち固定費11億円、在庫変動影響3億円
【年間】増加43億円、うち固定費27億円、在庫変動影響16億円

【上期】増収・減益

ラウンドアップ	増収(ML:流通在庫調整の終了により数量増)	ライメイ	増収(輸出:欧州での需要増)
アルテア	増収(国内:コメ価格高騰に伴う需要増)	フルララネル	横ばい(原薬出荷:24年度から一部出荷後ろ倒しにより増収 ロイヤリティ:円高影響・一部特許料率減により減収)
タルガ	増収(輸出:欧州での需要増)		

【下期】増収・増益

ラウンドアップ	増収(ML:流通在庫調整の終了により数量増)	ベルダー	増収(国内:24年度4Qから上市、25年度拡販)
グレーシア	増収(国内:拡販、輸出:アジア等での拡販)	フルララネル	増収(原薬出荷:増収 ロイヤリティ:一部特許料率減により減収)

【年間】増収・増益

ラウンドアップ	増収(ML:流通在庫調整の終了により数量増)	ライメイ	増収(輸出:欧州での需要増)
アルテア	増収(国内:コメ価格高騰に伴う需要増)	ベルダー	増収(国内:24年度4Qから上市、25年度拡販)
グレーシア	増収(国内:拡販、輸出:アジア等での拡販)	フルララネル	増収(原薬出荷:24年度から一部出荷後ろ倒しにより増収 ロイヤリティ:円高影響・一部特許料率減により減収)

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p63参照)

28

28 ページ、まず、前年同期比の主要な製品ごとの上期、下期、年間の YoY をお示ししております。また、固定費等の状況につきましても、それぞれ上期、下期、年間で、この表のすぐ下の小さいところに記載のとおりでございます。

この中で、フルララネルでございますが、上期につきましては、YoY で横ばいございました。内訳としては、原薬出荷、これは 24 年度から一部後ろ倒し出荷が今期にあったというご説明を 1Q にもしておりましたけれども、その影響でプラスと。一方で、ロイヤリティにつきましては、円高の影響、昨年上期から言いますと、7 円ほど円高と申し上げましたが、この影響と、一部特許料等の料率の減少による減収もここに影響しております。

なお、年間につきましては、一番下にフルララネルの記載でございますが、増収で、原薬出荷、それからロイヤリティ、それぞれ記載のとおりでございます。トータルとしては 12% の増収で、5 月の発表からは変わっておりません。

(億円)

	2025年度 予想 (2025年5月発表)			2025年度 予想 (2025年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	387	533	920	423	536	959	+36	+3	+39
営業利益	117	136	253	120	140	260	+3	+4	+7

【上期】売上高・営業利益上げ

ラウンドアップ 下ぶれ(AL:天候不良により出荷減少)

ライメイ 上ぶれ(輸出:欧州での需要増)

アルテア 上ぶれ(国内:コメ価格高騰に伴う需要増)

フルララネル 下ぶれ(原薬出荷・ロイヤリティともに下ぶれ)

タルガ 上ぶれ(輸出:欧州での需要増)

【年間】売上高・営業利益上げ

ラウンドアップ 下ぶれ(AL:天候不良により出荷減少)

ライメイ 上ぶれ(輸出:欧州での需要増)

アルテア 上ぶれ(国内:コメ価格高騰に伴う需要増)

ベルダー 上ぶれ(国内:24年度4Qから上市、25年度拡販)

タルガ 上ぶれ(輸出:欧州での需要増)

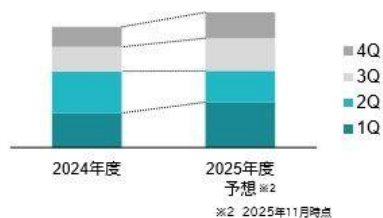
フルララネル 予想通り(原薬出荷:上ぶれ、ロイヤリティ:下ぶれ)

29 ページ、こちらは今の業績予想比を割合ごとに少しブレイクダウンして記載しております。後ほどご確認ください。

■ 当社のフルララネル売上高の構成

MAH※1社へのフルララネル原薬販売 + MAH社からのランニングロイヤリティ(RR)

■ 2024～2025年度 四半期別売上高推移 (RR収入含む)



MAH社のブラベクト・エグゾルト販売トレンドにより、
当社のフルララネル売上高は上期が厚くなる傾向にある

■ 2021～2025年度 売上高推移 (RR収入含む)



- ・2022年度は、2021年度からの出荷後ろ倒しと円安影響により大幅増収。実績為替レートは136円/ドル
- ・2023年度の実績為替レートは145円/ドル
- ・2024年度の実績為替レートは153円/ドル
- ・2025年度予想は前年比+12%、うち原薬販売は2024年度からの出荷後ろ倒しもあり+47%を見込む。想定為替レートは下期145円/ドル

■ ブラベクト®の拡大に向けたMAH社の開発状況

フルララネルを有効成分とするペット向けの新たな内外部寄生虫薬や、既存製品の登録国数の拡大に向けMAH社が開発中

※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門、MSD Animal Health 社の略称

33 ページに飛びまして、フルララネルの売上高の推移で、少し右側の緑の棒グラフにコメントを追記しております。

この25年度予想につきましては、24年度対比で12%伸びる想定でございますが、原薬販売につきましては、ここに記載のとおり、40%強伸びていると。これは先ほど来申し上げております、24年度からの出荷後ろ倒しを含むということで、そのような形で明記させていただいております。

(億円)

	2024年度 実績			2025年度 予想 (2025年11月発表)			前年同期比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	179	199	378	188	208	396	+9	+9	+18
ファインケミカル	63	66	129	68	66	134	+5	0	+5
基礎化学品	116	133	249	120	142	262	+4	+9	+13
営業利益	-3	7	4	-1	9	8	+2	+2	+4

【上期】増収・増益

ファインケミカルは、ファインオキシコールと環境化学品で増収
基礎化学品は、高純度硫酸(半導体需要増)と尿素・アドブルー®で増収

【下期】増収・増益

ファインケミカルは、売上高横ばい
基礎化学品は、高純度硫酸(半導体需要増)で増収

【年間】増収・増益

ファインケミカルは、環境化学品とファインオキシコールで増収
基礎化学品は、高純度硫酸(半導体需要増)と尿素・アドブルー®で増収

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p63参照)

| 35

続きまして、化学品でございます。これは 35 ページおよび 36 ページということで、35 ページは前年同期比でございます。

記載のとおり、上期、下期、年間と、それぞれ数億円ずつ前年同期比では増益になるということでございます。

(億円)

	2025年度 予想 (2025年5月発表)			2025年度 予想 (2025年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	191	210	401	188	208	396	-3	-2	-5
ファインケミカル	64	66	130	68	66	134	+4	0	+4
基礎化学品	127	144	271	120	142	262	-7	-2	-9
営業利益	2	10	12	-1	9	8	-3	-1	-4

【上期】売上高・営業利益下ぶれ

ファインケミカルは、ファインオキシコールと環境化学品で売上高上ぶれ
 基礎化学品は、硝酸製品(プラントトラブルにより4月に製造一時停止)を中心に売上高下ぶれ

【年間】売上高・営業利益下ぶれ

ファインケミカルは、ファインオキシコールと環境化学品で売上高上ぶれ
 基礎化学品は、硝酸製品(プラントトラブルにより4月に製造一時停止)を中心に売上高下ぶれ

| 36

一方、業績予想比では、36 ページにございますとおり、上期、ここは基礎化学品で硝酸製品等を中心に下ぶれしております。年間でもそのような形で、前期とは少し変わりました、ファインケミカルは比較的好調でございますが、基礎化学品のところで少し需要減が見られる影響が出ているということでございます。

(億円)

	2024年度 実績			2025年度 予想 (2025年11月発表)			前年同期比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	33	27	60	28	25	53	-5	-2	-7
ヘルスケア	8	10	18	10	9	19	+2	-1	+1
ファインテック	25	17	42	19	15	34	-6	-2	-8
営業利益	13	6	19	7	8	15	-6	+2	-4
ヘルスケア	2	2	4	2	2	4	0	0	0
ファインテック	11	5	16	5	6	11	-6	+1	-5

※ 億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合算値が合わない場合がある
 ※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p63参照)

【上期】減収・減益

ファインテック減収(一部顧客在庫調整)

【下期】減収・増益

固定費等減少により増益

【年間】減収・減益

ファインテック減収(一部顧客在庫調整)

| 40

最後に、ヘルスケアでございます。40 ページ、41 ページでございます。

40 ページは、先ほどご説明のとおり、前年同期比で、セグメントとしては年間で4 億円の減益。

(億円)

	2025年度 予想 (2025年5月発表)			2025年度 予想 (2025年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	26	26	52	28	25	53	+2	-1	+1
ヘルスケア	9	9	18	10	9	19	+1	0	+1
ファインテック	17	17	34	19	15	34	+2	-2	0
営業利益	5	9	14	7	8	15	+2	-1	+1
ヘルスケア	1	2	3	2	2	4	+1	0	+1
ファインテック	3	8	11	5	6	11	+2	-2	0

※ 億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合算値が合わない場合がある

【上期】売上高・営業利益上ぶれ

ヘルスケア売上高上ぶれ(リパロ海外上ぶれ)、ファインテック売上高上ぶれ(一部出荷下期より前倒し)

【年間】売上高・営業利益上ぶれ

ヘルスケア売上高上ぶれ(リパロ海外上ぶれ)

一方、次の 41 ページで見えていただきますと、年間では、利益としては 1 億円の上ぶれを想定いたします。

セグメント別 2025年度上期決算 前年同期比



(億円)

		2024年度 実績			2025年度 実績			前年同期比		
		1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
化学品	売上高	89	90	179	93	95	188	+4	+5	+9 (+5%)
	営業利益	7	-10	-3	7	-8	-1	0	+2	+2 (-)
機能性材料	売上高	235	251	486	259	285	544	+24	+34	+58 (+12%)
	営業利益	71	74	145	82	92	174	+11	+18	+29 (+20%)
農業化学品	売上高	204	188	392	266	157	423	+62	-31	+31 (+8%)
	営業利益	70	74	144	86	34	120	+16	-40	-24 (-17%)
ヘルスケア	売上高	15	18	33	16	12	28	+1	-6	-5 (-14%)
	営業利益	6	7	13	5	2	7	-1	-5	-6 (-46%)
卸売・その他・調整額	売上高	44	48	92	65	53	118	+21	+5	+26
	営業利益	-10	-6	-16	1	-5	-4	+11	+1	+12
合計	売上高	587	595	1,182	699	602	1,301	+112	+7	+119 (+10%)
	営業利益	144	139	283	181	115	296	+37	-24	+13 (+4%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・日本ポリテック(2024年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp61、p62参照)

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p63参照)

42

セグメント別 2025年度上期決算 業績予想比



(億円)

		2025年度 予想 (2025年5月発表)			2025年度 実績			業績予想比		
		1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
化学品	売上高	94	97	191	93	95	188	-1	-2	-3 (-1%)
	営業利益	8	-6	2	7	-8	-1	-1	-2	-3 (-)
機能性材料	売上高	257	263	520	259	285	544	+2	+22	+24 (+5%)
	営業利益	83	80	163	82	92	174	-1	+12	+11 (+7%)
農業化学品	売上高	232	155	387	266	157	423	+34	+2	+36 (+9%)
	営業利益	76	41	117	86	34	120	+10	-7	+3 (+2%)
ヘルスケア	売上高	15	11	26	16	12	28	+1	+1	+2 (+9%)
	営業利益	4	1	5	5	2	7	+1	+1	+2 (+39%)
卸売・その他・調整額	売上高	52	43	95	65	53	118	+13	+10	+23
	営業利益	0	-4	-4	1	-5	-4	+1	-1	0
合計	売上高	650	569	1,219	699	602	1,301	+49	+33	+82 (+7%)
	営業利益	171	112	283	181	115	296	+10	+3	+13 (+5%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・日本ポリテック(2024年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp61、p62参照)

43

以下、42 ページから 43 ページ。これが上期の実績値、1Q、2Q も含めました YoY と業績予想比のセグメントごとの数字でございます。

セグメント別 2025年度通期 前年同期比

Nissan Chemical CORPORATION

(億円)

		2024年度 実績					2025年度 予想 (2025年11月発表)					前年同期比				
		上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
化学品	売上高	179	102	97	199	378	188	103	105	208	396	+9 (5%)	+1	+8 (+4%)	+9 (+5%)	+18
	営業利益	-3	5	2	7	4	-1	3	6	9	8	+2 (-)	-2	+4 (-)	+2 (-)	+4
機能性材料	売上高	486	256	259	515	1,001	544	274	279	553	1,097	+58 (+12%)	+18	+20 (+7%)	+38 (+10%)	+96
	営業利益	145	80	68	148	293	174	81	66	147	321	+29 (+20%)	+1	-2 (0%)	-1 (+9%)	+28
農業化学品	売上高	392	146	324	470	862	423	168	368	536	959	+31 (+8%)	+22	+44 (+14%)	+66 (+11%)	+97
	営業利益	144	38	77	115	259	120	42	98	140	260	-24 (-17%)	+4	+21 (+22%)	+25 (0%)	+1
ヘルスケア	売上高	33	11	16	27	60	28	10	15	25	53	-5 (-14%)	-1	-1 (-9%)	-2 (-12%)	-7
	営業利益	13	4	2	6	19	7	2	6	8	15	-6 (-46%)	-2	+4 (+23%)	+2 (-23%)	-4
卸売・その他・調整額	売上高	92	51	70	121	213	118	40	59	99	217	+26	-11	-11	-22	+4
	営業利益	-16	1	8	9	-7	-4	-8	-2	-10	-14	+12	-9	-10	-19	-7
合計	売上高	1,182	566	766	1,332	2,514	1,301	595	826	1,421	2,722	+119 (+10%)	+29	+60 (+8%)	+89 (+7%)	+208
	営業利益	283	128	157	285	568	296	120	174	294	590	+13 (+4%)	-8	+17 (+3%)	+9 (+4%)	+22

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、NC東京ベイ、日本ポリテック(2024年度より連結子会社化)、日本肥糧、調整額：企画本部ほか(内訳はp61,p62参照)

※ 企画本部の2024年度実績、2025年度予想の売上高・営業利益はp52参照

※ 2025年度より新方式セグメント別営業利益、2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p63参照)

44

セグメント別 2025年度通期 前回業績予想比

Nissan Chemical CORPORATION

(億円)

		2025年度 予想 (2025年5月発表)			2025年度 予想 (2025年11月発表)			前回業績予想比		
		上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
化学品	売上高	191	210	401	188	208	396	-3 (-1%)	-2 (-1%)	-5 (-1%)
	営業利益	2	10	12	-1	9	8	-3 (-)	-1 (-)	-4 (-)
機能性材料	売上高	520	540	1,060	544	553	1,097	+24 (+5%)	+13 (+2%)	+37 (+3%)
	営業利益	163	146	309	174	147	321	+11 (+7%)	+1 (+1%)	+12 (+4%)
農業化学品	売上高	387	533	920	423	536	959	+36 (+9%)	+3 (+1%)	+39 (+4%)
	営業利益	117	136	253	120	140	260	+3 (+2%)	+4 (+3%)	+7 (+3%)
ヘルスケア	売上高	26	26	52	28	25	53	+2 (+9%)	-1 (-5%)	+1 (+2%)
	営業利益	5	9	14	7	8	15	+2 (+39%)	-1 (-11%)	+1 (+7%)
卸売・その他・調整額	売上高	95	94	189	118	99	217	+23	+5	+28
	営業利益	-4	-8	-12	-4	-10	-14	0	-2	-2
合計	売上高	1,219	1,403	2,622	1,301	1,421	2,722	+82 (+7%)	+18 (+1%)	+100 (+4%)
	営業利益	283	293	576	296	294	590	+13 (+5%)	+1 (0%)	+14 (+2%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、NC東京ベイ、日本ポリテック(2024年度より連結子会社化)、日本肥糧、調整額：企画本部ほか(内訳はp61,p62参照)

※ 企画本部の2024年度実績、2025年度予想の売上高・営業利益はp52参照

45

それから 44、45 ページにつきましては、3Q、4Q、下期、年間、それぞれ明記しました YoY と業績予想比のセグメントごとの状況でございますので、数字としては後ほどご確認ください。

今回、統合報告書も上期の終わりに対外的にお示ししておりますので、ここには記載はございませんけれども、研究開発、あるいは知財といったガバナンスのところも含めまして、当社が今取り組んでいるところ、また人的資本につきましても、かなり詳細にご説明しているので、お時間があればまたそちらもご確認くださいと思います。

私からは以上でございます。

質疑応答

<質問者 1>

Q：農業化学品のグレースシアについて、2Q は前年同期比で減収となった要因を教えてください。

A：グレースシアの 2Q 減収の要因としましては、インドでの在庫調整による販売減があったことが大きいです。2023 年度は、グレースシアのインドでの引き合いが強く、虫の発生も多かったので大きく数字を伸ばしましたが、2024 年度は虫の発生が非常に少ない中で、引き合いだけが残し流通在庫が溜まりました。今期はこの影響が出て、2Q では前年同期比で減収となりました。

Q：下期のグレースシアは前年同期比で大きく伸びる計画ですが、ここはどのように考えればいいでしょうか。

A：グレースシアは、インド向けの割合も大きくございますが、日本と韓国の販売数量もかなり大きく占めております。この 2 か国とも販売が非常に旺盛ということに加えまして、東南アジアでの数量増も加わっており、下期の増収計画には、その数字が含まれています。

加えて、インド向けでも、在庫調整がある程度一巡して、3 月頃の新規の引き取りがまた通常どおり行われるだろうことを前提にした数字となっております。

Q：日本と海外における農薬の市場環境についても簡単にご説明いただけますでしょうか。

A：日本は、特に米の作付意欲が非常に高まっている状況の中で、高付加価値の水稲除草剤を使っていくムードが高まった影響がございまして、当社の高機能製品が伸びております。殺虫剤グレースシアにつきましても、適応拡大を非常に積極的に進めておりますので、市場が広がっております。ラウンドアップについては、5 月の天候不順の影響を若干受けましたが、全般的には計画どおり推移しているところでございます。

海外につきましては、やはり中国の非常に安価なジェネリック品が市場を席卷している影響で、特に米国市場では、ジェネリックが出ている品目では大きな影響を受けております。

一方で、ブラジルも中国のジェネリック品の影響は非常に大きいですが、当社のブラジルでの販売品目はかなり限定的ですので、その影響は他の会社に比べると小さいと考えております。

ヨーロッパにつきましては、再登録作業が進んでおりまして、競合剤の審査が通らないケースが出てきております。そうした中で、当社のライメイ、サンマイト等の引き合いがかなり強まっており、市場環境的には、欧州もプラスと思っております。

先ほど申し上げましたインドでのグレースの状況が回復してくれば、国内外とも全般的にはプラス要因が多いと見ております。

<質問者 2>

Q：機能性材料の固定費等の考え方について教えてください。今期は、半導体の固定費等がかなり増える予想ですが、来期以降もこの水準が続くのか。また、今期は一過性の在庫変動影響もあるようですが、今後もこういったものが継続して発生する可能性についてご教示ください。

A：半導体は、顧客層が拡大する中で、研究開発費や一定程度の設備投資はこれからも増えていくと思っております。5月発表の中期経営計画でお示した今後3年間の設備投資や研究開発費も、そのような前提で作っております。一過性の在庫変動影響による費用増は、今期以降はおそらく発生しないだろうと思っております。

<質問者 3>

Q：24ページの半導体材料の中期見通しにつき、市場に対して御社が上回る成長を期待できる要因について、もう少し詳細にご解説いただけますでしょうか。

A：24ページ、下の棒グラフで示していますとおり、当社品の最先端・先端に占める割合はどんどん高くなっていきます。先端に行くほどプロセスが複雑になっていくのもありまして、当社品が使われるレイヤーも増え、数量も増えていくのが一つ挙げられます。

また、先端のところでは、品質を改善してお客様に提供していきますので、価格の下落がしにくい点もあるかと思っております。先端の部分が増える、価格が落ちにくい、こういった部分でアウトパフォームしていく形で考えております。

それに加えて、後工程において、当社の三次元実装材料は、HBM4、4E、5、と世代が進んでいく状況下で、使われるレイヤーが増えていきます。こちらアウトパフォームに寄与すると考えております。

以上